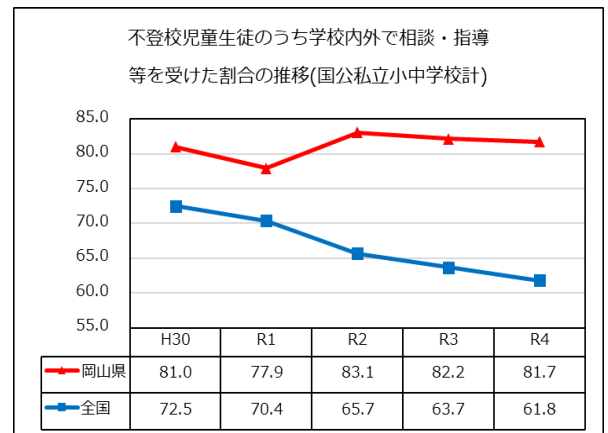
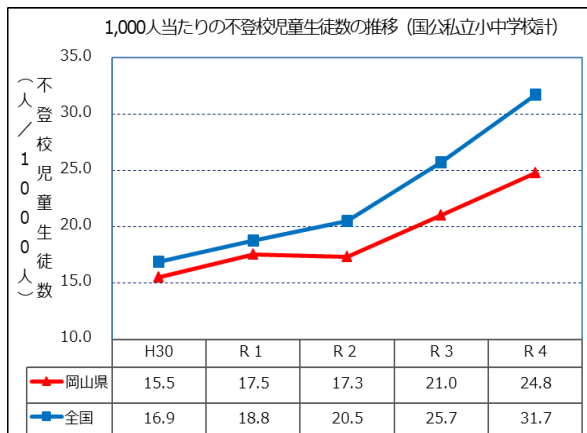


【新岡山県不登校総合対策】
OKAYAMA 夢につながる学びプロジェクト
～誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて～

1 不登校の現状

(1) 不登校を取り巻く現状

- ・本県の不登校出現割合は、全国平均を下回っているものの、全国と同様に増加傾向にあります。また、相談・指導等を受けた不登校児童生徒の割合は、全国的に減少傾向となっており、早急に対応すべき重要な課題です。



- ・文部科学省が令和5年3月に策定した、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」の趣旨を踏まえ、岡山県でも対策の速やかな推進が求められています。

(2) 現状を踏まえた対策の必要性

- ・これまで様々な不登校対策を行ってきましたが、こうした現状や、「登校する」という結果のみを目標にするのではなく、将来の社会的自立を目指すという観点を踏まえ、改めて不登校に係る基本的な考え方や対策を整理した上で、新たな取組も加え、総合的な対策として実施します。

2 基本的な考え方

誰一人取り残されない学びの実現

どのような状態の子どもでも学びにつながるができるよう、市町村教委と連携し、学校における指導の改善・充実や学校外での学びの場づくりを推進します。

○学校を、子どもたち誰もが通いたくなる魅力ある場所とします。

- ・学校は、他者との関わりの中で、様々な体験や経験を通して実社会に役立つ生きる力を養う場であるため、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりに取り組みます。
- ・児童生徒一人ひとりの学習進度や興味・関心等に応じた、主体的な学びを進めながら、学校の教育活動全体の中で、子どもたちが自ら考え決定できる場面を増やし、子どもたちの自己決定力や多様な他者を認めながら協力する力を育成します。

○子どもたち、保護者と丁寧なコミュニケーションを図ります。

- ・児童生徒や保護者が悩みを抱えて孤立しないよう、教員のアセスメント力を向上させるとともに、丁寧なコミュニケーションにより、必要な情報や適切な支援を提供します。また、地域住民や保健師等からなる家庭教育支援チームの設置促進等により、家庭教育に関する相談体制の充実を図ります。
- ・児童生徒1人1台端末も活用し、児童生徒の心の不安や生活リズムの乱れなどからわづかな変化を見逃さず、早期の対応につなげます。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる相談支援や、関係機関との連携など、「チーム学校」による適切な支援につなげます。

○子どもたちに、多様な学びの場を用意します。

- ・すべての児童生徒に「多様な学びの場」を用意し、社会的自立を支援します。

つながる多様な学びの場
○学校生活の基盤となる学級を魅力的な場所とします。
○学校内に自立応援室（別室）を整備し、登校はできても教室に入りにくい児童生徒の居場所を確保します。
○市町村の教育支援センターの機能充実や学びの多様化学校の設置を検討する市町村を支援します。
○県立高校内に教育支援センターを設置し、学習支援や生活支援等を幅広く展開することで生徒の進路選択を支援します。
○図書館や博物館などの社会教育関係施設も居場所として提供します。
○フリースクール、医療・福祉機関など学校外の組織との連携を促進します。
○メタバースを活用し、オンライン上でアクセスできる居場所を提供します。

3 今後の進め方

- ・学校（教職員）向け資料を作成し、研修等を通じ周知
- ・保護者、子ども向けリーフレットを作成し、各種媒体による広報を実施

※政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を実施しており、本取組の主体に岡山市は含みません。